

要旨

キーワード：保健室観、機能、空間整備

1. はじめに

養護教諭が児童生徒と関わる場として、最も身近な場所は保健室である。近年は、子どもの健康課題も多様化、深刻化が進んでいることに伴い、保健室も子どもの実態に応じた在り方が求められている。(財)日本学校保健会の保健室経営検討委員会報告書(H16.3)は「保健室経営とは…(略)…保健室の機能を最大限に生かしつつ…(略)…運営することである。」とある。そのため、保健室の機能を十分に生かせるような空間のデザインを考えることも養護教諭の役割の一つと言える。そこで本研究では、都内の学校に勤務する10人の養護教諭にインタビューを行い、養護教諭の保健室観と保健室の機能、空間整備がどのように関連しているのかについて分析を行った。さらにインタビュー内容と、文献に記述されている内容を比較しながら、保健室の機能を活かしたコーナーとその配置の根拠を明らかにすることを目的とした。

2. 方法

東京都内の幼稚園・小・中・高等学校に勤務する養護教諭10名を対象とし、2011年8月から12月にかけてインタビュー調査を行った。調査は、予めインタビューガイドを作成し、半構造化インタビューを用い、対象者と研究者1対1で行った。インタビュー内容は対象者の了解を得て、その場でメモを取る方法で行い、保健室のレイアウトに関する資料とするために、各学校の保健室の写真を撮らせていただいた。また、保健室の空間整備に至る根拠、在り方を探ることができる材料になると判断し理想とする保健室の平面図もデータとして収集した。インタビューでは、対象者の保健室観、保健室の空間整備についての工夫点、コーナーの配置、必要と考える施設・設備・備品などについて具体的に語っていただいた。倫理的配慮として、研究対象者に、研究の趣旨および方法を文書および口頭で説明し、特に得られたデータは分析以外には使用しないこと、データは匿名性を保持して管理を行うことについて説明した上で同意を得た。

3. 結果と考察

養護教諭のもつ保健室観には保健室の場所としての特質が影響し、保健室の機能を生かすための前段階としての役割、または、保健室の機能を生かさなくとも、保健室の存在意義や来室意味を持たせるための役割があると捉えている意見が多くみられた。これを役割期待とし、そのためにどのような機能が必要で、その機能を果たすためにどのような空間整備が必要か、という一連のプロセスが、養護教諭のもつ保健室観が空間整備に与える影響として存在していると考えられる。保健室のコーナーづくりに関して、インタビューからは12個のコーナーが挙げられた。これらは保健室の機能9項目にも対応させることができ、機能をいくつか兼ねているコーナーも存在することが明らかになった。また、コーナーに設けられる施設・設備・備品を充実させることによって、より保健室の機能を効率よく発揮することができ、保健室にコーナーを設けることは保健室の空間整備を考える上で必要であるといえた。保健室のレイアウトは、重症なものほど奥に導くようにコーナーを配置していたり、コーナーの機能を考慮して近くなるよう、または遠ざけるように組み合わせていることが多く、各コーナーの機能の配置の根拠が地理的に対応して、結果的に保健室の空間整備が進んでいることがわかった。